

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (歯科衛生学科)

○令和7年度の前期、後期、通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。
(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

- ・履修科目表に記載されている教養科目、専門科目の区分と対応させ、かつ教育目的および教育目標に整合させ、教育課程の編成・実施方針に基づいた体系性での配置となっている。
- ・全科目において、学生が履修するにあたってより高い教育効果が得られるよう、講義、演習、学内実習、臨地実習といった授業形態を組み合わせた授業を展開している。卒業時までの学生の学びの到達のひとつの指標となると考えられる歯科衛生士国家試験において、高い合格率を維持していることから、成果が上がっていると評価できる。
- ・授業内容は隣接科目と過度な重複を避けるように配慮している。しかしながら、隣接科目との若干の重複は、学生の理解を深める上でよりよい学びとなっている。
- ・開講時期について課題としてあげられていた科目（薬理学）があったが、履修生の状況を考慮し授業内容を柔軟に対応させ展開している。
- ・教育は、ディプロマポリシーに合致した内容の授業を展開している。

【課題・できていないこと】

- ・授業内容の隣接科目との若干の重複は、学生の理解の上であった方がより効果的であるが、授業時間数が十分でないことから、最小限にせざるを得ないことが制約となっている。
- ・履修登録科目（選択科目）に関して課題がある。専門基礎教育科目において、基礎医学的な知識を備えていないと理解が難しい科目が存在する。基礎医学的な知識（病態の成り立ちの知識等）を修得した後に、その後に各論的な内容の科目や、臨床歯科学の科目群を履修するという流れがある。また、多くの履修が望ましい授業内容であるが、選択科目という特性より難しい課題となっている。
- ・歯科衛生学教育モデルコアカリキュラム令和6年度改訂版（学士課程）が明示された。短期大学であるため対応できていない内容がある。

【その他・今後の検討事項等】

- ・歯科衛生学教育モデルコアカリキュラム令和6年度改訂版（学士課程）が明示され、より理想的な開講内容を設定できるようにするためには、現行の3年制課程では難しいものの4年制課程であれば、それが可能となる。4年制課程への移行を早急に検討すべきと考えられる。
- ・今後更に充実した教育を遂行していくためには、引き続き検証を定期的に行い、それをもとに改善すべき点があれば、改善していくことが重要である。